

# 実務経験が撤廃され、建築士試験合格者なら誰でも受検可能に 全国平均を大きく上回る受検社員の7割弱が合格した日本ERIに聞く 「建築基準適合判定資格者」検定の 改正で広がるキャリアの選択肢とは？



日本ERI株式会社  
熊本支店  
確認部 兼 評価部  
二級建築士・  
住宅性能評価員・副確認検査員  
古川 未佳氏

日本ERI株式会社  
さいたま支店  
確認部 兼 評価部  
一級建築士合格者・  
一級建築基準適合判定資格合格者  
成田 楓香氏

国家資格「建築基準適合判定資格者」の制度が、2024年から改正された。重要な変更点は2つある。1つは「一級建築基準適合判定資格者（一級建適）」の受検資格から「2年以上の実務経験」が消え、一級建築士試験合格者なら誰でも受検可能になったこと。もう1つは「二級建築基準適合判定資格者（二級建適）」という新たな資格ができたことだ。「建築副主事」や「副確認検査員」になれる資格で、二級建築士試験合格者でも受検できる。国内最大級の指定確認検査機関である日本ERIは、社員の資格取得をサポートし、建築業界を支える法律のプロとしてのキャリアを後押ししている。2つの資格者検定の合格者に、体験談を聞いた。

指定確認検査機関は、建築に関する法律のプロとして業界を支えている。機関が業務を行う中で、一級建築基準適合判定資格者（一級建適）に合格し、登録が完了すると確認検査員として、検査を行うことができる。47都道府県でサービスを展開する日本ERIは、1人でも多くの社員に資格を取得してもらうため、その支援に力を入れている。

具体的には、グループ会社であるERIアカデミーの建築基準適合判定資格者検定受検対策講座を全員が受講できるように支援する。加えて、各支店にいる有資格者が受検者の相談に乗り、指導することで合格率を高める。日々の審査業務はOJTそのものであり、社内研修を充実させるために研修施設を刷新、

専門的な知識やスキルが自然に身につく環境を整えている。

建築基準適合判定資格者は、検査員として仕事をするために不可欠な資格だ。2024年の検定で日本ERIは、36人の社員を合格させている。その他に、「特定建築基準適合判定資格者（ルート2主事）」や「省エネ基準適合性判定資格者」などの資格に対しても、資格取得の支援が充実している。

全ての業務に精通した専門家を多数そろえているのが、日本ERIの強みだ。社員が資格を重ねていくことで、プロとしてのステータスが確立され、顧客の信用も高まる。業界をリードする企業として、これからも資格取得を支援し、社員のスキルアップとウェルビーイングをサポートしていく。

## 実務経験が無くても受検可能 スキルアップを目指して決意

—— 受検の決め手を教えてください。

**成田** 学生時代から建築法規が好きで、それを生かした仕事がしたいと思い、2024年4月に新卒入社しました。在学中に一級建築士試験に合格しており、今年度から実務経験がなくても受検資格があると聞き、受検を決めました。

**古川** 補助員として、審査実務を10年ほど担ってきました。二級建適の資格が誕生すると聞き、すぐに受検しました。建物の審査は補助員でも可能ですが、完了検査は有資格者しかできません。資格を得たことで、今後の可能性が広がると感じます。

## 答案の書き方を覚えて何度も練習 社内の様々なサポート

—— 受検に至るまでどのようなサポートを受けましたか。

**成田** 入社後すぐにグループ会社のERIアカデミーの受検対策講座へ参加させてもらい勉強を始めました。審査Aは法規の試験です。これは一級建築士の試験を難しくしたような内容で、予想ができませんでした。

課題となったのは、審査Bの実務試験です。私は審査の経験がないので苦労しました。

建築物の図面から適合しているかどうかを、法的な根拠と共に論説します。答案の書き方を覚えるため、過去問題



実際の社内研修の様子

やERIアカデミーの演習問題に何度も取り組みました。また、新卒研修と勉強期間が重複していたので苦労しましたが、研修スケジュールの調整などの支援を社内から受けることができ、両立することができました。

**古川** 二級建適ができて初めての試験だったので、過去問題がありません。ERIアカデミーの演習問題や模擬テストがとても役に立ちました。また、現役の確認検査員である上司や同僚に解き方の相談ができたことは実践的な準備の助けとなりました。

## 業界に頼られる法律のプロを目指す 検査員不足の課題に貢献

—— 今後の目標をお聞かせください。

**成田** なるべく多くの専門分野に精通し、1人で建物を丸ごと審査や検査できるような専門家を目指します。「この人に仕事を頼めば安心」と言われるような、建築士からも頼られる存在になりたいです。

**古川** 持ち前のコミュニケーション・スキルを生かしながら、検査員として修練していきます。資格を得たことで確認審査から検査・交付までをワンズ



トップで行うことも可能になりました。補助員として感じていた検査員不足の課題解決に、少しでも貢献したいです。

## インタビューを終えて

一級建築士試験に合格した翌年に一級建適に合格した成田氏は、日本ERIの最年少合格者であり、最短距離を歩む人物として注目を集めるだろう。古川氏も、今回の制度改正を生かして専門家としてのキャリアを着実に高めている。

建築業界は、より多くの人材を求めている。建築士の可能性を広げるチャンスとして、指定確認検査機関をぜひ検討していただきたい。

### お問い合わせ

脱炭素社会に向けた  
住宅・建築物の省エネ対策推進へ

2025年省エネ法・基準法の改正も  
確かな実績の日本ERIにお任せください



日本ERI株式会社  
https://www.j-eri.co.jp/

